

中・深層いちばんの“お人好し”!? ヒドロ虫から巻き貝まで 生き物を養う“海の森”ヤギ類

取材協力

松本 亜沙子 研究員

海洋生態・環境研究部 第一研究グループ

サンゴと言えばまず思い浮かぶのがサンゴ礁。そんなスポットライトを避けるようにひっそり生息するサンゴの間にヤギ類がいる。どちらも刺胞動物・花虫綱に属するが、サンゴ礁を形成するイシサンゴは藻類と共生し光合成を行うため、浅い海域にしか生息できない。一方、宝石サンゴの仲間を含むヤギ類は共生藻を持たず、自らプランクトンなどを補食し、光の届かない中・深層にも広く分布する。

共生藻は持たないヤギ類だが、実はさまざまな生き物に住処を提供している。ツグチガイの仲間はヤギ類に住み着き、ヤギを食糧とする。ハナヤギのポリプの隙間にはびっしりとヒドロ虫が付く。ヤギに擬態するエビやカニ、ヤギのポリプを摘み取り自分の背中を飾るウミウシも知られている。プランクトンが多く得られる流れの速い海域に棲息し、堅い骨片で被われ忌避物質を分泌するヤギ類を食べる生物は少ない。そのため、ヤギは共生者にとって餌も豊富で、敵も少ない快適な住処となる。しかし、ヤギ自身が共生で得るメリットは今のところわかっていない。

ダイバーにはおなじみのヤギだが、スキューバで潜る限界深度と、潜水船調査の中心300m以深との間の海域を中心とした彼らの生態研究は意外に難しい。しかし、サンゴ礁が「海の森」と言われるように、固着生物の少ない中・深層ではヤギ類が同じ役割を担っていると考えられる。多くの住人の拠り所、ヤギ類の研究はまだ始まったばかりだ。

白い部分がハナヤギウミヒドラ。ヒドロ虫が死んでもハナヤギが死ぬことはない。



イソバナの先につく巻き貝、ツグチガイ。白い部分が貝殻。この貝の仲間の多くはヤギと共生する。



白い膜のように見えるのはツグチガイの卵。ハナヤギを被うように産み付けられる。

イソバナもハナヤギもセンターの水槽で観察した。長期の飼育はまだ難しい。

